

アンケート

これは、「情動知能」（社会生活の中で自他の感情を適切に理解し対処する能力）と倫理的判断についての研究のアンケートです。本研究についての詳しい説明は、以下に掲載されています。

<http://www.clg.niigata-u.ac.jp/~miyasaka>

下の「次へ」ボタンを押すと、アンケートが始まります。

ご協力のほど、よろしくお願いいたします。

I. 最初に、ご自身のことについてお答え下さい。

1. 学年

1 年生	2 年生	3 年生	4 年生
------	------	------	------

2. 年齢

18 歳	19 歳	20 歳	21 歳	22 歳	23 歳	24 歳	25 歳以上
------	------	------	------	------	------	------	--------

3. 性別

男	女	その他
---	---	-----

II. 下記の質問にお答え下さい。普段のあなたの行動や考えについておたずねします。あまり深く考えず、最初に頭に浮かんだものを選んで下さい。各文章を読んで、右欄の0~4のうち、自分に最もよく当てはまると思う数字1つを○で囲んで下さい。質問項目は1~65まであります。どれも飛ばさずに全ての項目に答えて下さい。

	項目	まったくあてはまらない	少しあてはまる	あてはまる	よくあてはまる	非常によくあてはまる
1	感情的になった時でも自分がどう感じているかわかる	0	1	2	3	4
2	自分の能力をわきまえ、イエス、ノーをはっきり言える	0	1	2	3	4
3	意味があって始めたことはともかく続けていきたい	0	1	2	3	4
4	目標達成のためなら苦労も気にならない	0	1	2	3	4
5	どちらにしようかという場合、自分で決断を下すことができる	0	1	2	3	4
6	気に障った時でも声を荒げない	0	1	2	3	4
7	自分で決めたことはやり遂げるようにしている	0	1	2	3	4
8	相手の喜ぶことをしてあげたくなる	0	1	2	3	4
9	人から悩みを相談されると、ひとごととは思えなくなる	0	1	2	3	4
10	相手の気分を害する発言はしたくない	0	1	2	3	4

11	災害に遭った人々のために何かしてあげたい	0	1	2	3	4
12	人を使うのがうまい	0	1	2	3	4
13	単なる八方美人ではなく、誰とでも付き合える	0	1	2	3	4
14	誰にでも進んで手を貸してあげられる	0	1	2	3	4
15	ここぞというときにはきちんと発言する	0	1	2	3	4
16	何かを始める時には、うまくいくだろうと思う	0	1	2	3	4
17	その場の雰囲気壊さないように気を付けている	0	1	2	3	4
18	集団を動かすことができる	0	1	2	3	4
19	必要に応じて新しい方法を提案することができる	0	1	2	3	4
20	状況の変化にうまく対応することができる	0	1	2	3	4
21	生活の場が変わっても自分の居場所が確保できる方だ	0	1	2	3	4
22	失敗しても平静でいられる	0	1	2	3	4
23	自分の感情の変化がわかる	0	1	2	3	4
24	今の自分の感情を言葉に表せる	0	1	2	3	4
25	一度始めたことは、最後までやり通したい	0	1	2	3	4
26	下積みの仕事にも意味を見つけていきたい	0	1	2	3	4
27	必要に応じて自分1人で物事を決めることができる	0	1	2	3	4
28	その場に応じて自分の感情を抑えることができる	0	1	2	3	4
29	三日坊主は最低だ	0	1	2	3	4
30	相手が喜んでると自分も嬉しくなる	0	1	2	3	4
31	心から悩みの相談を受けることができる	0	1	2	3	4
32	相手の嫌がることは口に出せない	0	1	2	3	4
33	ボランティア活動に参加したい	0	1	2	3	4
34	人の能力を適切に引き出すことができる	0	1	2	3	4
35	苦手な人とも打ち解けることができる	0	1	2	3	4
36	みんなのためなら嫌なことでもやる気になれる	0	1	2	3	4
37	決断が必要なときは迷うことはない	0	1	2	3	4
38	物事はすべて良い方に考える	0	1	2	3	4
39	交渉ではあまり相手を怒らせることはない	0	1	2	3	4
40	みんなを引っ張っていくことができる	0	1	2	3	4
41	前例にとらわれず、改革を進めることができる	0	1	2	3	4
42	とっさの場合にも適切な判断ができる	0	1	2	3	4

43	新しい集団や仲間すぐに溶け込む方だ	0	1	2	3	4
44	何事も相手の立場に立って考えるようにしている	0	1	2	3	4
45	自分の長所も短所も良く分かっている	0	1	2	3	4
46	仕事で先を読むのが得意な方だ	0	1	2	3	4
47	たかが遊びでも途中で投げ出したくない	0	1	2	3	4
48	仕事をすることに深い意味を感じる	0	1	2	3	4
49	押すときは押すと、物事にはメリハリをつけている	0	1	2	3	4
50	嫌なことがあっても人に当たったりしない	0	1	2	3	4
51	目標のためなら、どんな困難でも乗り越える覚悟がある	0	1	2	3	4
52	どうすれば相手に喜んでもらえるかを考えたい	0	1	2	3	4
53	悩んでいる人をみると声をかけずにはられない	0	1	2	3	4
54	相手を傷つける事だけはしたくない	0	1	2	3	4
55	困っている人をみると、何とかしてあげたくなる	0	1	2	3	4
56	人から仲裁を頼まれることが多い	0	1	2	3	4
57	人と親しくなることが苦手ではない	0	1	2	3	4
58	相手の話にはまず耳を傾けるのが礼儀だ	0	1	2	3	4
59	後輩や部下にテキパキと指示を下すことができる	0	1	2	3	4
60	「明日は明日の風が吹く」を実感することが多い	0	1	2	3	4
61	昔からの付き合いを大事にしている	0	1	2	3	4
62	会議の進行役を任されることが多い	0	1	2	3	4
63	状況の変化を予想して対策を立てる方だ	0	1	2	3	4
64	仕事の段取りを考えるのが苦にならない	0	1	2	3	4
65	状況に応じて自分を合わせることができる	0	1	2	3	4

Ⅲ. 以下の4つの場面について、「もしも自分がその看護師だったら」と、想像してお答え下さい。

場面1.

看護師Aが、非常に忙しい時間帯に、高齢の女性に間違った薬を与えてしまった。先輩看護師に報告したところ、「大した薬ではないし、明日退院だから、記録もしなくていい」と言われたため、記録をしなかった。次の日、その患者は退院したが、与薬ミスをしたことを、電話で患者に告げようか迷った。間違えて与えた薬には、ほとんど副作用はなく、黙っていれば誰にも気づかれないと思われる。

あなたがこの看護師だったら、次の各項目のような事を、どのくらい気にすると思いますか？ 右欄のうち、最もよく当てはまると思う数字1つを○で囲んで下さい。

	項目	思わ ない	あまり 思わない	どちら でもない	やや 思う	思 う
1	与薬ミスが発覚すれば、患者や他のスタッフに責められるかもしれない。	1	2	3	4	5
2	間違っで与えた薬には、ほとんど副作用はなく、深刻な問題にはならないのだから、必ずしも患者に告げなくてもよいかもしれない。	1	2	3	4	5
3	与薬ミスを話すのと黙っているのと、どちらの方が周囲からの評価に響くことになるだろうか。	1	2	3	4	5
4	与薬ミスを患者に話せば、病院全体を巻き込む大事（おおごと）になるかもしれない。	1	2	3	4	5
5	患者には、「適切な治療を受ける権利」や「知る権利」があり、これが侵害されている状態かもしれない。	1	2	3	4	5
6	この事例では、どんな原理や価値観がぶつかり合っているのかを、考えるべきかもしれない。	1	2	3	4	5

場面 2.

43歳の男性が、内視鏡検査の結果、切除不能な肺がんと診断された。主治医が検査結果を家族に説明したところ、「患者はナイーブな性格で、ショックを受けてしまうため、詳しくは知らせないでほしい」と言われた。医師は看護師に、「患者に何か聞かれたら、予後には個人差があるので、はっきりとしたことは分からない」と伝えてほしい、と言った。ところが、患者は「予後について教えてほしい」と看護師たちに聞いてきた。告知の方針は主治医が決めるのが当院の基本的なルールだが、看護師Bは、予後について医師に再度説明をしてほしいと伝えるべきかどうか迷ってしまった。この主治医は気難しい性格であった。

あなたがこの看護師だったら、次の各項目のような事を、どのくらい気にすると思いますか？ 右欄のうち、最もよく当てはまると思う数字1つを○で囲んで下さい。

	項目	思わ ない	あまり 思わない	どちら でもない	やや 思う	思 う
1	患者の希望を主治医に伝えると、主治医から嫌な顔をされてしまうかもしれない。	1	2	3	4	5
2	たくさんの看護師が関わっている中で、できれば自分の受け持ちの時に質問しないでくれるとよい。	1	2	3	4	5
3	どのようにすれば、患者と家族の両方に納得してもらえるだろうか。	1	2	3	4	5
4	告知の方針は主治医が決めるのが当院のルールなのだから、医師の指示通りにすればよいのかもしれない。	1	2	3	4	5
5	患者には、「詳しい病状を知る権利」があり、これが侵害されている状態かもしれない。	1	2	3	4	5
6	この事例では、どんな原理や価値観がぶつかり合っているのかを、考えるべきかもしれない。	1	2	3	4	5

場面 3.

28歳の女性患者Cが精神科病棟に入院した。患者は「薬を飲むと奇妙な気分になる」と言って、全ての薬を拒んだ。精神科医は、代わりの薬を筋肉内注射するように指示を出した。ある日、看護師Cは、興奮している患者を、他の看護師が押さえつけている間に筋肉内注射するように、看護師長から指示された。看護師Cは、嫌がる患者に注射をしてよいのか、迷ってしまった。この薬には、精神状態を安定させる効果がある。

あなたがこの看護師だったら、次の各項目のような事を、どのくらい気にすると思いますか？ 右欄のうち、最もよく当てはまると思う数字1つを○で囲んで下さい。

	項目	思わ ない	あまり 思わない	どちら でもない	やや 思う	思 う
1	指示通りに行動しないと、医師や看護師長から責められるかもしれない。	1	2	3	4	5
2	何人ものスタッフが一緒に対応しているのだから、自分だけが勝手な行動を取るわけにはいかない。	1	2	3	4	5
3	注射を受けて落ち着けば、患者が自分たちを責めることもないかもしれない。	1	2	3	4	5
4	このような場合に強制的に注射してもよいのか、病棟のマニュアルを確認すべきかもしれない。	1	2	3	4	5
5	強制的に注射を行うことは、患者の権利や基本的人権を侵害することになるのかもしれない。	1	2	3	4	5
6	この事例では、どんな原理や価値観がぶつかり合っているのかを、考えるべきかもしれない。	1	2	3	4	5

場面4.

60歳の男性患者Dの腰椎圧迫骨折の手術が終わり、看護師Dは患者を手術室に迎えに行った。患者は意識が戻りきっていなかったが、顔をしかめて手足を動かしていたため、そこにいた数人の看護スタッフで話し合い、点滴ルートなどを抜いてしまわないように、腕をベッド柵に結びつけて動けないようにする「抑制帯」を取り付けた。その後、看護師D1人がベッドを動かして、病棟に戻った。病棟に着くと、患者は目を覚まして大声をあげ、手を激しく動かそうとした。看護師Dは、主治医に相談せずに看護スタッフだけの判断で抑制帯を付けてよかったのかどうか、迷ってしまった。なお、患者Dに関して「身体抑制の同意書」の取得は為されていなかった。

あなたがこの看護師だったら、次の各項目のような事を、どのくらい気にすると思いますか？ 右欄のうち、最もよく当てはまると思う数字1つを○で囲んで下さい。

	項目	思わ ない	あまり 思わない	どちら でもない	やや 思う	思 う
1	抑制帯を付けることを主治医に相談しなかったことで、責められるかもしれない。	1	2	3	4	5
2	複数の看護スタッフで判断したのだから、自分だけが責められることはないかもしれない。	1	2	3	4	5
3	どうにかして、患者が怒りや興奮を抑えてくれないだろうか。	1	2	3	4	5
4	このような場合に、看護スタッフの判断で抑制帯を取り付けてよいことになっているのか、病棟のマニュアルを確認すべきかもしれない。	1	2	3	4	5

5	抑制帯を使用することは、患者の権利や基本的人権を侵害することになるのかもしれない。	1	2	3	4	5
6	この事例では、どんな原理や価値観がぶつかり合っているのかを、考えるべきかもしれない。	1	2	3	4	5